

「地熱貯留層・生産工学の教育・研究の取り組み」(概要)

日本は代表的な地熱資源国として知られ、発電出力換算で約 2,300 万 kW (30 年間) 相当のポテンシャルを有するとも言われています。地下から高温の蒸気・熱水を生産して利用する地熱発電は、坑井の掘削に成功し適切に生産を管理すれば、半世紀以上に渡って安定操業が可能であることが国内でも実証されていますが、それには多くの努力を伴い、技術的な課題も残されています。講演者は民間企業で約 9 年間、地熱資源の調査・開発や地熱発電所の操業に携わった後、2019 年より大学で地熱資源の評価・生産技術 (地熱貯留層・生産工学) に関する教育・研究に携わっています。本講演では、講演者の大学での取り組みを軸に、その背景にある技術的課題も含めてご紹介します。
